

認知症になっても安心して暮らせる 町づくり100人会議宣言(案)

- 1 わたしたちは、認知症を自分のこととしてとらえ、学びます。
- 2 わたしたちは、認知症の人の不安や混乱した気持ちを理解するよう努めます。
- 3 わたしたちは、認知症の人が自由に町に出かけられるよう、応援します。
- 4 わたしたちは、認知症の人や家族が笑顔で暮らしていけるよう、いっしょに考えます。
- 5 わたしたちは、市民や企業人としてできることを行い、安心して暮らせる町づくりをめざします。

第1回

認知症になっても安心して暮らせる町づくり
100人会議

—第2部 キャンペーン キック・オフ イベント—

2005 年 7 月 8 日(金) 14 時 50 分～16 時 30 分

霞ヶ関東京會館 ゴールドスタールーム

目次

1. 〈地域活動報告①〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1

「みんなでつくろう！ひとにやさしい川崎のまち」（神奈川県川崎市）

- ・ 「劇団 SOS」による認知症介護寸劇上演

2. 〈地域活動報告②〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9

『『もの忘れ散歩のできるまちほんべつ』をめざして』（北海道本別町）

- ・ 本別町認知症高齢者支援システムの紹介

3. 〈地域活動報告③〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P25

「いつだって心は生きている～大切なものを見つけよう～」

（福岡県大牟田市）

- ・ 絵本＆音楽のコラボレーションによる癒しコンサート

みんなでつくろう！ひとにやさしい川崎のまち

神奈川県川崎市

川崎市認知症ネットワーク
劇団 SOS

「みんなでつくろう！ ひとにやさしい川崎のまち」

—認知症になっても 我が町で 堂々と暮らそう！

お互いさまで支え合う 地域ケア推進をめざして—



川崎市認知症ネットワーク



長い間認知症の問題は、偏見と差別の中で、社会の水面下で家族が孤軍苦闘してきましたが、川崎では20数年前から先進的に認知症にとりくんでいた専門医療機関や保健福祉センターのバックアップの中で、家族が仲間と出会い、悩みを分かち合う「家族会」や人情あついで伝統ある地域では身近に手を差し伸べる「ボランティアグループ」が育ってゆきました。



たとえ認知症になっても、介護をする日々でも、一人の人間として、社会の一員として、社会の中で、堂々と暮らしていきたい！ 自分たちから町に出て行こう。孤立している人にはメッセージを伝えよう・・・一人で悩まないで！と。生活の場、地域で理解者を増やしていこう。介護の現場の声の出せない小さな声に向き合っていこう。



町に歩み出した小さな一歩から、市内のお仲間3団体がつながり、交流を深め、10年前には16団体で連絡会となり、現在は約31団体（会友7団体）が全市的に手をつなぎ、認知症の方・家族の支援活動、社会への啓発活動、行政などの関係機関には介護現場の声なき声を届ける活動を続けています。

- ◆ 本人・家族支援の展開は、隣人として仲間として町のなかでとりくむミニデイサービス、施設ボランティア、ワーカーズ、家族会活動、全市的には相談事業「サポートほっと」、介護相談員、やすらぎ支援員になって施設入所者や在宅介護者を支援。今年は若年性認知症支援グループ「麦」の活動もはじめました。
- ◆ システムとしての支援体制は実質的な援助になります。実施した徘徊実態調査、介護実態調査の結果や介護現場からの声を行政や関係機関に届けてきました。介護者指導教室、痴呆ケアガイド作成、徘徊 PHS 導入、徘徊 SOS システム構築、実務者研修、やすらぎ支援、サポートほっと支援等を施策として、市民との信頼関係の中、協力協働の支援体制は時代を先駆けたものとも言えます。
- ◆ 我が町で堂々と暮らしたい！それには認知症に対する正しい地域社会の理解、徘徊や介護への地域の見守り、協力がかせません。町の中で、地域で、全市的規模で、セミナー、講演会、寸劇上演などの啓発活動を展開、寸劇は家族会「紙ふうせん」やボランティアグループ「りんごの会」がはやくも平成3年から町の町内会健康教室を保健師とまわり、介護家族やボランティアが実体験にもとづく介護模様をリアルに演じました。今日は全市11団体選りすぐりの名優の迫力ある演技をお楽しみに（なお地元では本物の警察官も登場して徘徊保護協力を呼びかけて大好評）
- ◆ 「人間として我が町で堂々と暮らしたい！」・ ・ 厳しい介護の現場を知る仲間達の熱い思いの中で歩んできた20年。道は決して楽なものではなかったが、地道に、あきらめずに取り組んできた活動はお互いさまの地域ケア、福祉文化推進につながってきたと手応えを感じるこの頃です。



認知症介護の悩み相談

介護に悩んだり、困ったとき・・・
疲れて、ほっとしたいとき・・・



☆お電話ください ☆直接お話しにいらっしやいませんか

受け付け時間 第1・第3木曜日 10:00～16:00

でんわ 044 (246) 4700

FAX 044 (244) 4218

◇ 相談室

(財)川崎市在宅福祉公社
川崎砂子ビルディング9F
(川崎区砂子1-2-4)

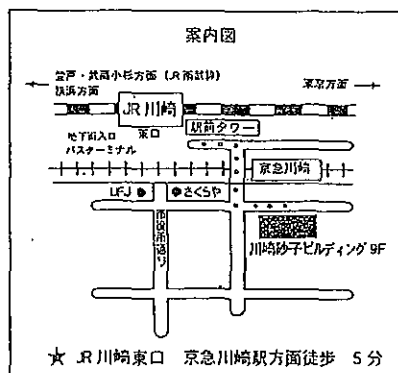
◇ 相談員

介護の体験を持つ家族仲間、地域で
ミニデイサービス等で、支えている
グループのメンバーです。

◇ 相談内容は秘密厳守いたします。

◇ サポートほっとは

(財)川崎市在宅福祉公社の委託事業です。



実施団体 川崎市認知症(痴呆)ネットワーク

(2005年4月1日より団体名変更)

私たちの街 川崎では 多くのボランティアグループ、家族会等の
人々が、地域の中で認知症の方と家族を支えています。

一人で悩まないで！
・・・ご相談ください

多摩区

- ♥ボランティアグループ コスモス 堀 935-5295
- ♥にっこり会 吉田 933-3959
- ♥ほがらか会 山田 877-9213
- ♥いずみ 田口 944-4313
- ♥ひらいらん 平井 822-4817
- ♥together 中俣 944-2937
- ありの会

高津区

- ♥在宅介護者の会 原田 777-5028
- ♥なつめ 吉田 811-0754
- 高津子母口の会

中原区

- ♥やよい会 根本 411-3340
- ♥資生クラブ 錦川 422-7325
- ♥コスモスの会 吉野 766-5162
- ♥ケアハウスこたま 435-5274
- ♥ははえみ 井上 433-7907
- ♥マダムクラブ 箱内 777-4900
- ♥ホッとスペース中原 佐々木 777-7599
- ♥さくら会 渡辺 422-2014

川崎区

- ♥ネットワーク所属(平成17年度) ○会友
- ♥ビーボーの会 荒木 266-3662
- ♥リンゴの会 柏原 233-3651
- ♥紙ふうせんの会 井上 333-0954
- 和み庵
- トラジの会

麻生区

- ♥はなみずきの会 特沼 988-4427
- ♥グループとも 953-8656
- ♥いちご会 五十嵐・永野 965-1918
- たま・あさお精神保健・福祉をすすめる会
- ASA健康井戸端会

幸区

- ♥すみのの会 飯田 588-0383
- ♥こころのふるさとホーム 渡部 543-7017

宮前区

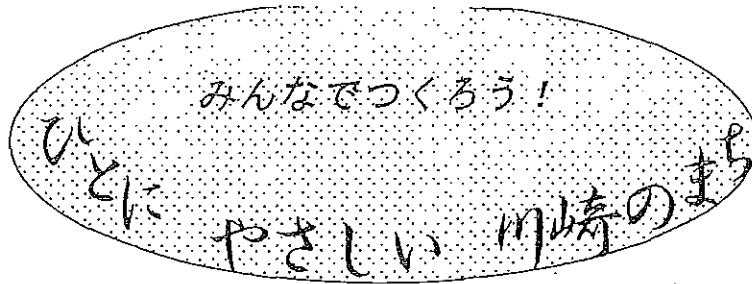
- ♥宮前ミニデイ向丘 田中 854-2330
- ♥水泳の日の会 佐藤 888-0947
- ♥宮前すみのの会 鈴木 976-0117
- ♥水曜会 武谷 966-2909
- ♥すずの会、だるまの会 鈴木 755-7357

川崎市地域ケア研究会

- ♥ぐるーぷあ 吉田 811-0754
- ♥司法書士福祉ボランティアの会 小山 211-2811
- 事務局 渡辺 211-6561

川崎市認知症(痴呆)ネットワーク

代表 持沼 邦子 麻生区王禅寺西 7-9-34 988-4427
事務局 中川 和子 麻生区王禅寺東 2-38-8 954-6988



認知症は 病気です

道に迷っている高齢者を

みかけたら 声をかけて！



川崎市認知症ネットワーク

徘徊

認知症の人は、記憶や見当識（場所、時間、人物）の機能が低下して、通い慣れた場所でも、帰り道が分からなくなって迷子になったり、長く住んでいる家にいても、自分の家でないように思っ、て、「帰ろう」として歩き回ったりします。

介護している家族が注意を払っていても、ちょっと目を離した時にいなくなったり、家族は対応に大変苦慮しています。

私達川崎市認知症ネットワークの徘徊実態調査では 徘徊中の1/3の方は、住んでいる地域・区内で発見保護されましたが、2/3の方は、他区や横浜、東京、千葉など他都市へと広域化して保護に時間がかかっています。人が行き交っていても、人の目のない大都会・・・徘徊中に交通事故に会ったり、道に迷って生命に関わる危険性が高いので、早く発見して保護する事が必要です。

地域のみなさんの声かけが、命の保護につながります！

家族の方へ

〇介護の日々本当にご苦労様です。家族が心をこめて介護をしても、思うにまかせなくて辛い事が多々あるでしょう。中でも徘徊の症状は、場所や時間が分からなくて迷子になったり、本人なりの目的にかられて家を飛び出してしまうので、家族だけで対応するのは大変です。決して恥ずかしい事ではありません。日頃からご近所や地域の方に勇気を持って話してお話して、見つけたら声をかけてもらいましょう。川崎市では徘徊 SOS ネットワーク事業があり、事前登録しておく、関係機関の連携で早い保護につながります。区役所、近くの在宅福祉センターに相談してみましょう。

〇今日は帰って来られても、いつか帰れなくなる日があります。一度でも帰って来られないことがあれば、事前登録している地域の区役所等の連絡先を書いたサイン（徘徊ネーム）を車の裏やポケットに取り付け付けてみてはいかがでしょうか。

ゆっくりと 穏やかに 声をかけてね

◆何十キロも歩いて
家に帰る道がわからない

◆本人は不安な気持ちで
いっぱい！

◆ご苦労様！
お疲れさま！と声を
かけてくださいね

◆落ち着かせ
てください

◆本人が大丈夫と
いっても
目を離さないで
ください

◆衿の裏に
連絡先が
書いてあるか
確かめてください

◆一番大切なのは

安心感 です



◆まず水、お茶で
水分補給を！食べ物も！

◆名前、住所を
穏やかに
聞き出してください

◆女性は旧姓を言う
場合があります。

◆連絡先が警察に
通報してください！
そばに付いていて
ください

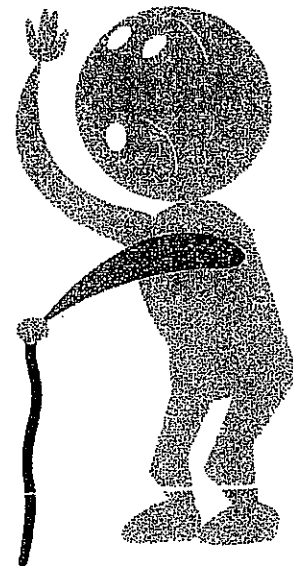


帰り道を忘れてしまっていて困っています、力を貸してください。

徘徊 SOS

連絡先

川崎市認知症(痴呆)ネットワーク



お家で介護している高齢者が、一度でも帰ってこれないことがあったら...

こんな対策をお勧めします

川崎区徘徊高齢者 SOS ネットワークの

「事前登録システム」にお申し込みください。(無料)

お申込みは、区役所保健福祉サービス課、地区健康福祉ステーション及び

川崎区内在宅介護支援センターへどうぞ！(連絡先は裏面にあります。)

※ お申込の際は、原則にお電話でご相談ください。また、登録にはご本人のお写真が必要になります。

★事前登録システムとは・・・

事前に必要事項を登録しておくことで、いざ行方不明になった時には、速やかに区内の7つの支援センター及びその事務所、区役所に情報が流れ、また警察と連携を回ります。
家族だけで探すより、多くの情報が力になります。



☆ 日頃の生活で工夫できるといいでしょう ☆

- 1、持ち物に連絡先をつけましょう。
衣類や、かばんなどに名前と、緊急連絡先を入れましょう。
- 2、福祉用具を活用しましょう。
徘徊高齢者発見システム事業/PHSなどで位置を確認します。
(川崎市の単独事業で補助がつきます。)
徘徊センサーのレンタル (介護保険で利用できます。)
- 3、痴呆の進行を防ぐために生活の変化をつけましょう。
デイサービス、デイケア、ホームヘルパーさんとの散歩など、外出の機会をつくりましょう。

お申し込み ・ お問合せ先

●川崎区在宅介護支援センター

施設名	所在地	電話	FAX
桜寿園	川崎区桜本 2-39-4	287-2558	287-2577
恒春園	川崎区小川町 10-10	211-6313	211-8922
しおん	川崎区本町 1-1-1	222-7792	222-7796
京町	川崎区京町2-15-6 神和ビル3F	333-7920	333-7938
大師の里	川崎区日の出 2-7-1	266-1192	266-1198
サンビューかわさき	川崎区田町 2-9-2	280-4838	280-4837
アイリスケア プラザ 大師	川崎区中瀬 3-10-2	270-5617	270-1977
川崎区高齢型	川崎区砂子1-2-4 川崎砂子ビルディング	244-2093	244-4218

●区役所保健福祉サービス課、地区健康福祉ステーション

川崎区保健福祉サービス課 高齢者支援担当	電話 201-3080
大師地区健康福祉ステーション 高齢者支援担当	電話 271-0157
田島地区健康福祉ステーション 高齢者支援担当	電話 322-1986



町へ出よう!いろいろなことをやろう!

若年性認知症自主グループ

ぐるーぶ麦 友へのお誘い

川崎市認知症ネットワーク所属団体

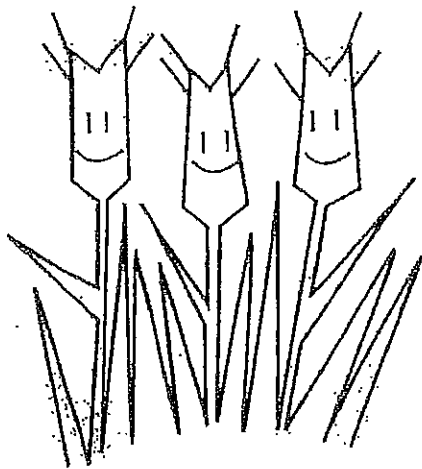
認知症という病気を抱えていても、毎日楽しくイキイキとすごすことは大切なことではないでしょうか——「ぐるーぶ麦」は、そう考えた支援サポーター・当事者家族が集まり、当事者と共に楽しめる場を提供することを目指してつくられたグループです。

決まった場所で決まったスタイルの活動を行うのではなく、さまざまな場所でさまざまな活動を行います。当事者が周囲に合わせるのではなく、個々の状態に合わせたグループづくりを行います。また、当事者家族のピア・カウンセリングや情報交換もすすめ、双方を支援していきます。

「病気だから」と閉じこもらず、町へ出て、楽しめること、やりたいことを御一緒にしませんか? きっと、病気にもいい効果があると思います。

支援サポーターとは

当事者がやりたいことの
実現をお手伝いし、楽しい
ひとときを共に過ごす仲間
です。今までに、認知症介
護経験者・ヘルパー等介護
専門職・福祉専門職などが
参加しています。



今までの活動

2005年

- 3月15日 発会のつどい：麦とろご飯パーティー
- 4月26日 東高根森林公園ハイキング・等覚院つつじ見物
- 5月24日 イタリアンランチと麻雀教室
- 6月28日 餃子づくりと麻雀・懇親会

これからの予定

ボーリング・園芸教室・ゴルフ・カラオケ・お料理教室・
ボランティア活動・ハイキング・手芸・パソコン教室 など

対象者
活動時間
活動場所
連絡先

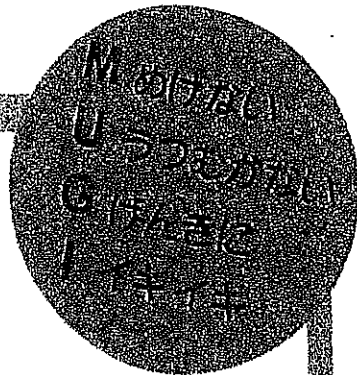
64歳以下の認知症当事者・家族

毎月第4火曜日 10:00~15:00

主に川崎市・北部

吉田歌子(代表) TEL 044-811-0754

FAX 044-811-0792



「もの忘れ散歩のできるまちほんべつ」をめざして

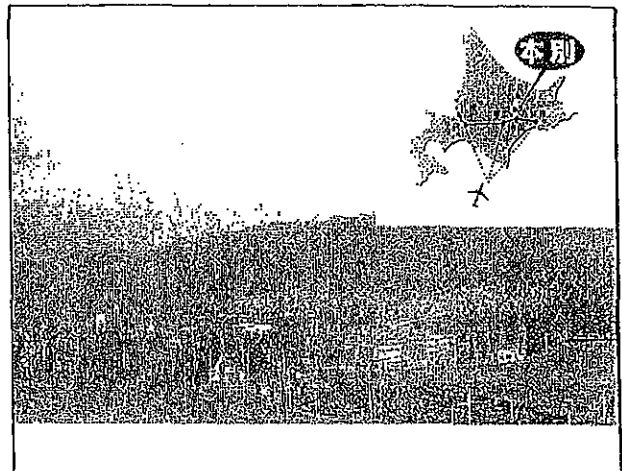
北海道本別町

町長 高橋正夫

本別町在宅介護支援センター 飯山明美

～「もの忘れ散歩」のできるまち
ぽんべつ」をめざして～

北海道本別町



本別町の人口・世帯の状況

(平成16年10月1日現在)

人 口	総世帯	65歳以上の人口・世帯の状況			
		人 口	高齢 化率	一人暮らし 高齢者	高齢者 夫婦のみ世帯
人 9,309	世帯 4,005	人 2,577	% 27.7	人 388	人 461

一万人が家族の地域ケアシステム

町民一人ひとりが家族として支えあえるまちづくり

健康長寿のまちづくり案例

- 参** 加 → 町民と協働したまちづくり
- 連** 携 → 一万人が家族のまちづくり
- 自** 立 → 受ける福祉から創造性のある福祉へ

町民一人ひとりが家族として支えあえるまちづくり

認知症高齢者地域ケア推進事業

事業化の計画

平成16年度

- 高齢者実態調査で、要介護高齢者の多くに認知症の症状がみられた
- 認知症に関する相談は、中度・重度がほとんどであった(実態)
- 後期高齢者(75歳以上)の増加に伴い、認知症高齢者の増加が予測される

平成16年度

地域ケアシステムの構築

介護予防・高齢者の生活

◎保健・医療・福祉関係者
◎介護サービス関係者
◎地域住民の代表者
◎高齢者

◎65歳以上の高齢者の多くは、65歳以上生活している
◎医師の診断を受けたもの
◎介護サービスを利用している
◎地域からの支援を受けるもの
◎高齢者の生活の質を向上させる

今後の事業展開に向けての重点事項の設定